

道北・空知



反転均平工法の普及へ現場研修

空知総合局東部耕地出張所

【岩見沢】空知総合局

産業振興部東部耕地出張所は12日、美唄市内の農地で反転均平工法の現場研修会を開いた。産業振興部職員のほか、地域の農家や関係企業など約50人が参加し、道内外で普及が進む区画整理の工法について理解を深めた。

空知総合局が開発した同工法は、農作物を育てる表土と、その下の心土をレーザープラウを用いて反転してから整地し、最後に再び反転して作土を表層に戻すことで、ほ場の土壌構造を維持する。作土を別の場所に移してから作業する工法に比べると施工時間やコス



トの縮減が期待される。研修は福中建設が施工する経営体峰延第2二期

また、ウェブを用いて道農政部や上川総合局などといった遠隔との合同研

適度な間隔を取りつつ現場を見学した

修や施工状況の共有を試験的に実施した。あいさつで東部耕地出張所の熊井隆二所長は「限られた予算や人材の中で要望に応えるためにも、同工法のメリットや課題点を勉強し今後の業務に生かしてほしい」と呼び掛けた。

各担当者による同工法の取り組みのほか、地区、工事概要などの説明の後、現場で実際にレーザープラウが稼働し、土壌を反転させている様子を見学した。